

# 学力向上推進・校内研修計画

## 1 学力向上推進計画

※前年度の成果と課題

【成果】… 全国学力学習状況調査において、数学の正答率が県の平均正答率を7%上回り、全国の正答率を1.8%上回った。また沖縄県学力到達度調査において、すべての教科で平均正答率が県より5%以上上回った。

【課題】… 朝学習、宿題、放課後の補習における学習内容が、どの調査を対象とした学習内容かを生徒に十分意識させた上で取り組ませている。

【対応策】… 国語、数学、英語、理科の各教科において、全国学力・学習状況調査および沖縄県到達度調査に向けた問題に一定期間取り組ませる。

### 1 学力向上推進に係る目標

- (1) 総括目標：生徒の「確かな学力」の向上をめざす。
- (2) 推進目標：全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率を上回る。  
沖縄県到達度調査において、県・地区の平均正答率を上回る。

### 2 基本方針

- (1) 県学力向上推進施策の「3つの視点」（視点1「自己肯定感の高まり」視点2「学び・育ちの実感」視点3「組織的な関わり」）及び八重瀬町学力向上推進計画を踏まえ、生徒の実態や課題を明確にした計画を実践する。
- (2) 各学年・各教科における生徒の実態を基に成果目標を設定し、その達成に向けた実効性のある学力向上推進の充実を図る。
- (3) 校区内の小学校と連携を図り、生徒の実態把握（学力、学習規律、生活指導）に努める。
- (4) 校内研修との連動により全教科で授業改善を図る。

### 3 取組の重点

- (1) 年間を通して学習規律の徹底に取り組む。
- (2) 朝の学習を充実させ、学習の成果を生徒自ら実感できるよう努める。
- (3) 授業と連動した宿題を家庭学習の根幹とし、家庭学習ノートで自主学習の充実を図る。
- (4) 校内研修と連動した授業改善により、生徒の思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- (5) Chance Time などの補習指導を充実させ、自主的に学ぶ環境を整える。
- (6) 全国学力・学習状況調査等、各種調査の過去問を活用した授業改善や個別の学習相談を行う。
- (7) 朝の学習、授業、宿題、定期テストに関連性を持たせることで学習効果を高める。

### 4 日常的な取組事項

- (1) 学習規律の徹底・・・授業に対する心構えの育成及び学習環境を整える。
  - ① チャイム前の着席を徹底させる。
  - ② 『立腰、黙想』による挨拶で授業を開始する。
  - ③ロッカーや机の中を整理整頓させる。
- (2) 授業と連動した宿題
  - ① 授業の学習内容と連動した宿題を課す。
  - ② 宿題の提出日を教科ごとに設定し、その提出日に合わせて宿題を与える。  
提出日 月：社会 火：数学 水：理科 木：国語 金：英語
  - ③ 当日の朝8：00までに各学年のチャンスルーム前に提出し、各学級の学習委員が提出状況をチェックする。

### (3) 家庭学習ノート

- ① 土日を中心に1ページ以上自主学習し、月曜日の朝、各学年のチャンスルーム前に提出する。
- ② 担任が点検し、提出状況を学習委員が記録する。
- ③ 1冊終了したら生徒自身で校長室へ提出する。

### (4) 朝学習・放課後補習

- ① 8:00から8:15までは読書の時間とする。ただし、定期テスト前はテスト勉強とする。
- ② 月・火・木・金曜日はA日課とし、月・木・金は朝活動の時間にドリル学習を行う。教科は原則として英語・数学・国語を中心とする。ただし、定期テスト前およびテスト期間中はテスト勉強とする。火は朝活動の時間に集会や人権読書等を行う。
- ③ 水曜日はB日課とし、放課後補習を行い、原則として数学のプリントに取り組み、生徒同士の教え合いによる自主学習を促す。
- ④ 朝学習・放課後補習は全職員体制で行う。

### (5) 補習教室の利用

- ① 各学年Chance roomを開放し、自主学習や学び合いの場をつくる。

## 5 短期的な取組事項

### (1) 学力向上強化月間

- ① 4月は学習規律を整える。
- ② 9月は、地区陸上終了後から家庭学習と放課後補習を強化する。家庭学習は点検日数を増やし、提出状況をクラスごとに掲示し、意欲を高める。放課後補習は月間中の回数を増やし、10分程度の課題を教科ローテーションを組み、実施する。
- ③ 1月～4月は、到達度、全国学力、入試に向けて対策を行い、朝学習や放課後補習の回数を増やす。
- ④ 学力向上強化月間中にも、読書の時間を確保する。

### (2) 定期テスト1週間前の補習

- ① 部活動停止期間を利用して、放課後15分の課題を行う。
- ② 学年ごとに教科を決め、教科担当は課題を準備し、全職員体制で行う。
- ③ 必要ならば教科の補習指導を行うこともできる。

### (3) 三者面談中の補習

- ① 面談の待ち時間を利用して基礎基本の定着を図る。
- ② 12月の面談時に到達度、入試対策を行う。
- ③ 特別教室で各学年に分かれて学習する。

### (4) 夏休みの補習

- ① 夏休みを利用し学習の遅れを取り戻す。
- ② 高校生による学習ボランティアを活用する。

### (5) 各種調査の結果の分析と活用

- ① 各種調査結果の分析を行い、全職員で共有し、教科で対策を立て授業改善に活かす。

### (6) 記述式問題の実施と分析

- ① 定期テストの中に記述式問題を取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。  
(定期テストは学推担当が保管)

## 6 授業改善の取組 (校内研修と連動させる。※校内研修計画を参照)

## 7 学力向上推進計画

サイクル	月	月別取組	日常的取組
	1月 ～ 3月	○年度末の取組 ○到達度調査の実施 ○到達度調査の結果の活用 ○春休みの課題を5教科で課す。	
計画 実践	4月	<b>4月学力向上強化月間（学習規律徹底月間）</b> ○「学力向上推進計画」の確認 ■全国学力・学習状況調査(中3)の実施(国・数・理) ■標準学力調査(1・2年5教科)の実施	○校内研修 ○教科会
	5月	○全国学力学習状況調査結果の活用 ・成果・課題の把握 指導計画に向けた取組 ・年間指導計画の見直し(時数配分等) ・授業改善のポイントを共有	○「問い」が生まれる授業サポートガイド ○授業における基本事項
	6月	○標準学力調査(1・2年)の結果の分析(対応の検討) ■学力定着状況調査(学びのたしかめ)の実施① (1年→国・数、2年→国・数・英、3年→英) ■県版生徒質問紙調査の実施①	○朝学習、Chance Time ○授業と連動した宿題、家庭学習ノート
評価 改善	7月	○学校評価(7月)の実施と分析 ○学習相談(三者面談)の実施(3年) ○校内研修(各教科や学級・学年の実践発表) ○夏季休業中の補習指導 ○宿題の提供	
計画	8月	○全国学力学習状況調査の結果分析 ・教育課程の点検・見直し (指導計画, 時間配分, 週時程等) ・授業改善のポイントを共有 ○実力テストの実施と結果の活用	
実践	9月	<b>9月学力向上強化月間（学習“やる気”アップ月間）</b> ○学力向上推進月間の取組	○授業研究会 ○「問い」が生まれる授業サポートガイド
	10月	■標準学力調査(3年5教科の実施)	○授業における基本事項
	11月	■県版生徒質問紙調査の実施②	○朝学習、Chance Time
評価	12月	○学習相談(三者面談)の実施(全学年) ○標準学力調査(10月実施)の結果の分析 ○学校評価(12月)の実施と分析	○授業と連動した宿題、家庭学習ノート
実践	1月	<b>1月～3月学力向上強化月間（学習ステップアップ月間）</b> ○県到達度調査に向けた取組	
評価 計画	2月	■県到達度調査 ・分析結果の共有及び成果と課題の確認 ○「学力向上推進計画」の評価と改善策の検討	
	3月	○年度の成果と課題の把握 ○「学力向上推進計画」の見直し	

## 学力向上 具志頭プロジェクト good see chance

『自己肯定感の高まり』『学び・育ちの実感』『組織的な関わり』

方策1 日常化する【質的授業改善】 方策2 そろえる【組織的共通実践】 方策3 支える【発達の支援】  
方策4 見通す【学校組織マネジメント】 方策5 つなぐ【学校連携・地域連携】

### 1 日常的な授業公開・授業参観

- (1) 学期に2回程度公開できる授業の教材研究を行う。
- (2) 職員室の今週の予定時間割に、観察してよい時間に氏名を書く。
- (3) 教科にかかわらず、短時間でもお互いの授業観察を行うようにする。
- (4) 授業参観後は、感想を授業者にフィードバックする。また、管理職が参観した場合は、授業者に対し指導・助言を行う。

⇒方策1:質的授業改善 方策2:組織的共通実践 方策4:学校組織マネジメント

### 2 授業改善の視点をもった教材研究

- (1) 校長による週案点検を行い、学力向上推進資料等より授業改善の視点を示す。
- (2) 各教科会を確実に実施し、授業実践を教材研究ノートで示し実践の共有化を図る。
- (3) 地区指導主事招聘授業やその他の公開授業を通して授業研究を深める。

⇒方策1:質的授業改善 方策2:組織的共通実践 方策4:学校組織マネジメント

### 3 朝学習・放課後補習の充実

- (1) 朝学習は原則として英語・国語・数学のドリル学習を行う。
- (2) 教師は10分程度のプリントやワークを用意する。
- (3) 各学級で係を決め、生徒中心でプリント、テストの配布、回収、採点等を行う。
- (4) 水曜日の放課後補習は原則として数学のプリントに取り組み、生徒同士の教え合いによる自主学習を促す。
- (5) 朝学習・放課後補習は全職員体制で行う。

⇒方策2:組織的共通実践 方策3:発達の支援 方策4:学校組織マネジメント

### 4 定期テスト1週間前の補習

- (1) 部活動停止期間を利用して、放課後15分の課題を行う。
- (2) 学年ごとに教科を決め、教科担当は課題を準備し、全職員体制で行う。
- (3) 必要ならば教科の補習指導を行うこともできる。

⇒方策2:組織的共通実践 方策3:発達の支援 方策4:学校組織マネジメント

### 5 各種検定試験の推奨

- (1) 検定試験を年間計画へ挿入し、生徒、保護者へのお知らせを行う。
- (2) 検定試験申込のアナウンスと申込用紙の配布を計画的に行う。
- (3) Chance room等に検定試験の過去問を設置し、生徒の自主的な学習を促す。
- (4) 2次対策等、合格者数を増やすための教師の関わり方を検討する。

⇒方策2:組織的共通実践 方策3:発達の支援 方策4:学校組織マネジメント  
方策5:学校連携・地域連携

### 6 家庭学習の取り組み

- (1) 家庭学習ノートを配布する。  
家庭学習ノート:30枚60ページ(1日1ページで2か月分)
- (2) 家庭学習の取り組み方の説明を担当及び教科担任で行う。
- (3) 保護者のサイン欄を設け、保護者との連携を図る。
- (4) 使い始めと使い終わりの日にちを記入することで目標を持たせる。
- (5) 1冊終了毎に校長に提出し、提出状況をグラフ化して掲示する。

⇒方策2:組織的共通実践 方策3:発達の支援 方策4:学校組織マネジメント  
方策5:学校連携・地域連携